

「明治日本の産業革命遺産」が 遂に 世界遺産に！！

ドイツ・ボンで開かれていた国連教育科学文化機関(ユネスコ)世界遺産委員会は7月5日、九州を中心とした「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」を世界文化遺産に登録することを決めました。幕末の19世紀後半から20世紀初めにかけて、急速な産業の近代化を示す資産として評価されました。

大牟田は、三池港・宮原坑・炭坑鉄道敷跡が選ばれました。ふるさとの施設が世界遺産に選ばれたことを誇りに思います。同時に、世界遺産登録の瞬間に出会えたことを嬉しく思います。

イコモスってどんな団体？

世界遺産登録前によく耳にしていた「イコモス」という言葉。「イコモス」とはいったいどんな団体なのでしょう？

イコモスとは、国際記念物遺跡会議(ICOMOS/ International Council on Monuments and Sites)のことで、文化遺産保護に関わる国際的な非政府組織(NGO)です。イコモスはユネスコをはじめとする国際機関と密接な関係を保ちながら、世界文化遺産の保護・保存、そして価値の高揚のための重要な役割も果たしてきました。文化遺産保護の原理、方法論、科学技術の応用の研究などを続けています。またユネスコの諮問機関として、世界遺産登録の審査、モニタリングの活動を続けています。

今後の研修会の予定

08月27日(木) ユネスコスクール・ESD研修会

ホテルニューガイア オームタガーデンで開催されます。
ふるってご参加ください。



大牟田市立橋中学校の実践

「つなぐ」をテーマにした活動を通して

本校では、「つなぐ」をテーマに様々な活動を行っています。ESDにおける学習過程で、「交流・行動・発信」をキーワードとした取組を大切にして福祉学習と進路学習を中心とした学習を行っています。1年生は、高齢者疑似体験学習や認知症に関する絵本教室、2年生は、職場体験学習、3年生は、保育体験学習を核として、「自分たちができること」「社会に対して発信できること」を観点に学習をしているところです。

今後、2年生は、京都・奈良や大牟田を題材とした世界遺産学習にも取り組む予定です。また、気仙沼市立気仙沼中学校との交流もすすめています。



大牟田市立高取小学校の実践

「かかわり」の活動を通して

高取小学校校区には、特別老人ホーム「延寿苑」という施設があります。毎年、4年生は、施設の様子やそこで働いている方々の仕事について調べた後、施設を訪問し、入所されているおじいさん、おばあさんたちの肩をたたいたり、一緒になってなつかしい歌を歌ったりします。その後、入所されている方々の誕生日にカードを贈るなど、自分たちでできることを考え、実行する学習を行っています。この取組を通して、子ども達は、職員の方々が一人一人のお年寄りのことをよく理解され、暖かい心で接してあること、高齢者の方々が自分たちの訪問を心待ちにしてあることなどに気づき、相手のことを考え、自分たちでできることを、計画して実践していくことの楽しさを実感することができたと思います。今後、この学習で学んだことを生かして、一人一人が、相手を思いやる心を持ち、友だちや家族、地域の方々などに接していくことにつなげていきます。

